

入におきましては、予算現額の計が三千一百一十九万五千五百六十円、実績は三千九百一十二万四千四百三十九円、おたのむにござります。この数字は、予算現額に好む率に、その増収、金額に、三千六十六万九千四百六十九円、おたのむにござります。

つぎに、オニ穀の、庫支、金収入から、六頁の、前収入に、いたるもの、に、おまは、二流、明、と、省、略、と、せ、て、い、た、だ、き、ま、す、と、最後、の、オニ、合、計、の、と、ころ、を、二、覧、い、た、だ、き、た、と、い、お、す、ま、す。

オニ合計は、予算現額の計が九千四百六十九万二千五百六十円、実績は九千三百三十二万五千二百一十九円、おたのむにござります。この数字は、庫支、金収入、前支、金収入、その、他、を、買、入、り、し、ま、す、と、奥、庫、の、収、入、合、計、は、予算現額に、おま、百、三、十、六、万、九、千、九、百、九、十、三、円、お、た、の、む、に、ござ、り、ま、す、が、一、お、は、も、ち、ろ、う、ん、前、の、再、収、入、分、は、り、オ、ニ、再、算、に、お、き、ま、す、支、出、額、は、少、な、く、は、る、お、ま、り、で、ま、す、と、い、お、す、ま、す。

す。

つぎに、オニ穀の、庫支、金収入から、六頁の、前収入に、いたるもの、に、おまは、二流、明、と、省、略、と、せ、て、い、た、だ、き、ま、す、と、最後、の、オニ、合、計、の、と、ころ、を、二、覧、い、た、だ、き、た、と、い、お、す、ま、す。

オニ合計は、予算現額の計が九千四百六十九万二千五百六十円、実績は九千三百三十二万五千二百一十九円、おたのむにござります。この数字は、庫支、金収入、前支、金収入、その、他、を、買、入、り、し、ま、す、と、奥、庫、の、収、入、合、計、は、予算現額に、おま、百、三、十、六、万、九、千、九、百、九、十、三、円、お、た、の、む、に、ござ、り、ま、す、が、一、お、は、も、ち、ろ、う、ん、前、の、再、収、入、分、は、り、オ、ニ、再、算、に、お、き、ま、す、支、出、額、は、少、な、く、は、る、お、ま、り、で、ま、す、と、い、お、す、ま、す。

オニ合計は、予算現額の計が九千四百六十九万二千五百六十円、実績は九千三百三十二万五千二百一十九円、おたのむにござります。この数字は、庫支、金収入、前支、金収入、その、他、を、買、入、り、し、ま、す、と、奥、庫、の、収、入、合、計、は、予算現額に、おま、百、三、十、六、万、九、千、九、百、九、十、三、円、お、た、の、む、に、ござ、り、ま、す、が、一、お、は、も、ち、ろ、う、ん、前、の、再、収、入、分、は、り、オ、ニ、再、算、に、お、き、ま、す、支、出、額、は、少、な、く、は、る、お、ま、り、で、ま、す、と、い、お、す、ま、す。



公益質屋事業貸は基金とシテ五林の基金が三百百
 三十三万三千二百三十三と別途経費をいたしてあり
 予計関係から公益質屋の貸は金と回収金の計数は本
 決算の数字の内に記入するに二とせしめられおる
 いたしと申します。本決算年度中に於ける貸は基金の
 運用状況につき予計は昌西に事務局長三人が朗読さ
 れたように書面をカテ議長三人宛に報告申しあげ
 たりと申します。

つぎに支出決算の状況につき二龍明申しおます。
 三頁から支出決算の事業別明細書に於てありまし
 る、才一親の事業収入二は質屋の貸は金の利息
 収入と質屋の分を分けてた売却子収入でござい
 ます。予算現額の計が九十七万五千円に於て予
 算収入済額は予算現額をオーバーして予算百
 九百七十三円あるのをご説明します。予計に於て
 占買の増収、金額に於て五万余円の増収があるに

のをご説明します。

つぎの才三親、才三親、才三親、才三親、才三親、
 四親の諸収入につきその二龍明は省略させていただきます
 一、番下の才三親、才三親、才三親、才三親、才三親、
 三十三万八千円に於て予算収入済額は二百六十九
 万あるのをご説明します。事業収入が予算額を上回
 る見通しがつきましたために一般会計からの繰入金
 と一部手引の才三親の関係から、実際の収入額は予算
 現額に於ては二とします。予計に於ては二とします。
 ためけの二とします。

つぎに才三親、才三親、才三親、才三親、才三親、
 二と存じます。才一親の経費費、二はが質屋

会計の才三親の才三親、才三親、才三親、才三親、
 人件費、才三親、才三親、才三親、才三親、才三親、
 理費等、才三親、才三親、才三親、才三親、才三親、
 予算現額の計が二百六十九万八千円に於て予算

願は百いたい万八天百三十三日、
 三子有六十七日あるたのふさしい子下。
 不用願は十三万。

予の五頁の第一款予備費は省略させていたところ
 予そ、又出合討は予算現額に計か二百三十二万
 八千円に好し予そ支出者額は百八十一万八千三百三
 十三円あるところといふ下。不用額は四十三万七千
 九千四百六十七円あるところといふ下。ニクシ
 又入決算は予算現額に好し予そニナ六万余円
 の収入不足があるところといふ下。又入決算
 におき四十三万余円の不用額を出した結果、
 昌興に用しあつたことあり差引三千七万余円
 の翌年度繰越金を出したところといふ下。
 以上二回並質屋持別会計決算の二部明を終ら
 せていたところ。

ついで日程才十一議案才七十二号昭和四十二年度
福生財と青島持別会計才入才出才算の部明に移

うやてんたき子

昭和四十二年 度 福生社と 高湯特別会計 に入方
 出 決算 という見出しのいこい 所が つけ あり 下りか、
 二かか 代表表 によい 子と、 入 決算 額は 三十三百
 四十九万三千三百いナ六日 に 好シ 子と、 出 決算 額は
 二十四百いナ万三百七十九日 あたの らによい 子と、
 入 方 金 差引き 現金が 八百三十一万三千七百、 二か
 けの 資金を翌年度に 繰越した 入 方 によい 子と、
 つきに 入 決算の 内容 に つき 説明 あり たいと
 存じ 下り

三頁から「入」の事業別明細書にほそあり
すか、オ一款は事業収入でございすか、二の事
業収入が、容易持分合計「入」の借組みにほそあるゆ
けでございすや、その事業収入のへ寄強はと畜使用
料、いゆると殺料収入でございすや、残りの二割
弱が倉庫使用料と前に記めらと畜検査手数料

つきの五頁にありす。オニ親の譲出金、オニ親の借費、オニ親子備費につき示すの二龍明は省略していただきす。一頁の一番下にありす。オニ合算におき予算現額の前が三千二百二十六日にし示す。オニ親額は一千四百三十九日があつたのふごいす。不用額は七百八十四万五千六百二十六日あつたのふごいす。二の不用額のうち四百四十七万九千日予備費の残ふごいす。以上で、商場特別会計決算の二龍明を終らせていただきます。

つぎに昭和四十二年度福生は福生都市計画福生土地区画整理事業特別会計オニオニ出決算の龍明に移りていただきます。昭和四十二年度福生は福生都市計画福生土地区画整理事業特別会計オニオニ出決算という見出しのいふ所がフクありす。二の表を二つに示す。

オニ入決算額は一億五千四百二十九万七千二百二十九日であつたのふごいす。

二のオニ入オニ出表引き戻し合算六百一十六万四千四百六十四日、二のオニの資金を翌年度に繰越したオニマシイす。

この表合に区画整理事業につき建設的龍明を二つに示す。昭和三十一年度には本区画整理事業特別会計が設けられ、以来二の昭和四十二年度決算年度までに五年度を超過したのふごいす。その間当初の事業計画である十億四千六百四十万のうちに本決算年度までに通算するの六十四%が終了オニマシイす。二の区画整理事業地区と加美平地区とに分け、本決算年度末における事業の完成率は、区画整理地区が六十九%、加美平地区が六十九%にあつた。二の区画整理地区の土地区画整理収支紛争の

たかに加美平地区が違ひております。二とほ既に遺贈
をしております、この点につきは本決算書にのぞお
りしております。遺贈を承継する人から適切なる意見書が来
たりたしたためを申し上げます。しかしながら昭和四十二
年度決算と決算との対比にそのみ見る限りは予算
に計上して下事業は一応すべて執行したためを
申し上げます。また本決算の明細にその二説明書にあ
つたものとあります。三頁は本決算の事業別明細に
おろしております。オ一が分組金および留組金収入
を申し上げますが、この収入が区画整理事業特別会計
の収入の主に成る部分でございます。いゆる区画整理
に於ては、保留地が分収入を占めております。予算現
額の計が一億二千三百六十九千四百に好してその収入
諸額は一億二千五百二十万一千三百十九日あつたので
ございます。

つぎのオ二款の購入金、オ三款の繰入金、オ四款の諸

収入にその二説明は省略をさせていたためと
最後のオ入合計におろしては予算現額の計が一億
五千五百三十三万六千四百に好してその収入諸額は
一億五千九百七十七万二千四百に好してその収入諸
の収入諸額は予算現額に好してその収入諸額は
余はの収入超過があつたためでございます。

つぎにオ本決算の明細につき二説明書にあげたいと
あります。田舎から本決算の事業別明細書にのぞ
おろしては、オ一が分組金の収入を占めておりますが、都市
計画管理課の職員人件費その他本特別会計にのける一
般的な費用を占めております。本特別会計にのける
そのの重要は部分を占めております。つぎのオ二頁
のオ二款の事業費、この款が加美平地区と内蔵
の計が一億五千三百三十九万八千四百に好してその収入諸
額が一億四千五百三十九万四千五百七十九日、その収入諸

百七十一万三千四百三十九円あるのと云う事です。二の
決算年度も重要は年度であつたのと云う事です。
本決算年度中に於ける土地区画整理事業の閉
催日数は四地区を合せて通算十四回の多きにあつ
て、子に東京都市新都市建設公社に業務委託せし
めしめた御路築造工事あつたわけは直接施行した
てした家屋移転補償費等々いふ予算計画に任ず
執行したと云ふ事と云う事です。
そのうち三款予備費につくは二説明を省略させてい
ただきです。一頁の支出合計を二覽にただきとい
ふ事です。支出合計は予算現額の計が億五千
六百一十三万六千円に於ては支出有額は億五千
五十六万五千三百一十円あつたのと云う事です。
額が五百二十七万六千六百一十円あつたのと云う
以上は区画整理事業特別会計決算の二説明を
終りさせていたと云う事です。

最後に日程が十三課案が七十四号昭和五年度
福生は水道事業会計決算送附しての二説明に移
らしていただきます。水道事業会計決算書の一頁
に記されてあります昭和四十二年度福生は水道事業
決算書につく二説明を申しあげたいと存じます。
これはあくまで課金で二課金にただきするに予算
に於ける予算の対照表と云う事です。最初が収
益的収入おとしい支出に於けるものと云う事です。
この収益的収入おとしい支出と申しするものは、
に於ける、水道事業のうち、
に於けるのみを予算と云う事です。予算そのものは収入
と支出とを合算するわけと云う事です。最初の収入に
おとしい、収入、支出とを課は一つと云う事です。
水道事業収入全体と云うは予算額の合計が九千二百九
十六万五千円に於ては決算額は九千四百一十一万九千六
百五十七円あるのと云う事です。予算額に比べ決算

